

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年十一月度 入選句 (投稿総数二千五百七十一句・小中学投句数千六百七十一句)

特選

のき下にほしがきならびのれんかな 大垣市 加藤 悠花(小四)

柿は秋を代表する果物であり、種類も自生柿と栽培柿とがあります。栽培柿の渋柿が干柿になるのですが、その干柿を見ての句ですね。

たくさんの干柿がずらりと並んでいたのですね。各家庭によつて方法は様々ですが、作者が観たのは、軒下の干柿がびっしりあつて、まるで暖簾のように見えたのですね。よく観察し、周囲の人達にもイメージ豊かに広がるすばらしい作品ですね。

どんぐりのちいさいぼうしかわいいな 大垣市 はやしれおと(小二)

公園へお出かけなのか、山へのお出かけの時なのかしら。その時に発見した句なのですね。

どんぐりが落ちて間がない時の様子なのでしょうね。手にしたどんぐりが、とつてもかわいかったですね。その上、かわい帽子までかぶっていたのですものね。

ハッと見て、素直に詠まれたのですね。優しいまなざしが感じられ、読み手の心にも浸るすてきな作品ですね。

夕日浴び黄金に光るいなほたち 大垣市 大橋 一輝(小六)

秋まつ盛りの田園風景の様子を詠まれたのですね。青々としていた稲もいつの間にか花が咲き、風になびき、みずみずしい稲穂が豊かに育て、しっかりと実ってきた田園。

その実った稲穂が垂れ黄金色に輝いた豊作の様子が目に浸みますね。読み手にも感動の様子、想い、自然のすばらしさを広めてもらえるすてきな作品ですね。

秀逸

田んぼ道歩けばふわりと秋風が 大垣市 増田 翔(小四)

登下校歩く頭上を赤蜻蛉 大垣市 上垣 采椰(中二)

秋刀魚焼くにおいが家族をよんできた 大垣市 宇納 壱心(小五)

もみじがねはずかしそうにかおまっか 大垣市 よこかわ かい(小二)

おつきみのおだんごたべるこつそりね 大垣市 國嶋 小春(小二)

くりのいえちくちくしててけがをする 大垣市 まつおか ともは(小二)

すんだ空ひこうき雲がならんでる 大垣市 川瀬 未祐(小三)

ほしがきがのきしたならびダイエツト 大垣市 藤田 光聖(小三)

帰り道あかくそまるウロコ雲 大垣市 高木 康作(小四)

集まって大きな魚に鯛雲 大垣市 伊藤 誠章(小六)

入選

おつきさまくもにかくれてかくれんぼ 大垣市 いわた りこ(小一)
 赤とんぼみんなでさんぽたのしいな 大垣市 ごとう いつき(小三)
 秋祭りたいこやふえと風の音 大垣市 酒向 乃愛(小四)
 木の下で外からかおるきんもくせい 大垣市 小倉 駿(小六)
 もみじふるおどるみたいにひらひらと 愛知県春日井市 山本 心結(小三)
 夕やけをゆうがに泳ぐとんぼたち 大垣市 木村 優(中一)
 秋の虫夜な夜な歌う大合唱 大垣市 黒見 双葉(中一)
 ひよ鳥の寝ぐらにぎわしやぶの中 大垣市 早野 龍希(中一)
 闇の中切りさく光稲妻だ 大垣市 平野 真菜(中一)
 むしたちもうんどうかいをはじめたよ 大垣市 すみかま れいあ(七才)

入選

通学路鼻をくすぐるキンモクセイ 大垣市 安部 小夏(小六)
 夜ごはん秋刀魚のかおりがへやにまう 大垣市 栗野 奏音(小六)
 帰り道ふと空見上げあかね雲 美濃加茂市 鍵谷 真奈(中一)
 響く声体育大会みな熱い 美濃加茂市 山田 昇吾(中一)
 あきあかねたまにいっしょにかえるんだ 大垣市 さとう れん(小一)
 あかとんぼたびをつづけていえさがし 大垣市 もり ゆのか(小一)
 ちくちくのぼうしをかぶりくりおちる 大垣市 いたう こうき(小一)
 空およぐいわしのたいぐんいわし雲 大垣市 竹内 けい太(小一)
 空見れば赤とんぼ達がかけっこ中 大垣市 川瀬 桃愛(小四)
 スーパーで秋刀魚の大群泳いでる 大垣市 伊藤 誠章(小六)

選者吟

下校の児銀杏落葉をかけ合ひて

勝

子